

大黒橋

だいきくはし Daikoku-bashi
〈道頓堀川〉



阪神高速環状線の東側、新戎橋の西側に架かる大黒橋。戎橋が今宮戎神社への参道に対して、大黒橋は本津大黒神社への参道に通じたので大黒橋と呼ばれた。古くは難波橋とか下橋と呼ばれ、現在より少し東側に架けられていた。大黒橋という名前が定着したのは、元禄16(1703)年の「公私要覧」に大黒橋とあり、これ以降のこと。嘉永7(1854)年、大阪は津波に襲われ西道頓堀川に架かる橋は全て壊され、さらに遡ってきた船や橋が大黒橋に引っ掛かり岸へ乗り上げたため周辺の家屋も大きな被害を被ったとされる。

現在の橋は、昭和5(1930)年、鉄筋コンクリート造の近代的な橋に架け換えられたもの。この橋の一段高くなっている部分は煉瓦タイル装飾の歩行者道路となっている。昭和63(1988)年にはベンチや植樹枡が設置されるなどの整備が行われた。また、上流に接して道頓堀川の浄化用の可動堰が設けられていたが、道頓堀水辺整備事業で現在橋の架け換え工事中であり、これに伴い平成20(2008)年に可動堰は撤去された。